

## 広根地域(大阪府・兵庫県)の超丹波帯の再検討

## Reexamination of the Ultra-Tamba Terrane in the Hirone area, Osaka and Hyogo prefectures, SW Japan

# 菅森 義晃 [1]

# Yoshiaki SUGAMORI[1]

[1] 阪市大・理・地球

[1] Dept. Geosci., Fac. Sci., Osaka City Univ.

兵庫県南西部と大阪府西北部の広根地域には超丹波帯とされる山下層と長尾山層が分布している(松浦ほか, 1995)。山下層は泥岩を主体とし, 少量の砂岩を伴うとされ, 楠ほか(1997)によって山下層の珩長質凝灰岩からペルム紀中世後期~新世, 泥岩からペルム紀新世の放散虫化石が報告されている。長尾山層は山下層の構造的低位に位置し, 泥岩を主体とする下部層と砂岩を主体とする上部層に細分されている。上部層の泥岩から *Nassellaria* が産出することから, 長尾山層は中生界とされているが, より詳しい堆積年代は不明である(松浦ほか, 1995)。長尾山層は, 研究地域の東方に位置する京都西山地域の高槻層に対比されている(松浦ほか, 1995; 宮地ほか, 2005 など)。しかし, 高槻層の珩長質凝灰岩からペルム紀新世放散虫化石, 泥岩からはペルム紀の放散虫化石が産出する(菅森, 2004, 2005)ので, 両者の対比には問題がある。筆者は広根地域の超丹波帯とされる地質体の検討を現在行っており, 松浦ほか(1995)の長尾山層下部層分布域の泥岩からペルム紀新世を示す放散虫化石を得た。講演では, 産出した放散虫化石について報告し, 山下層, 長尾山層の関係について考察する。

放散虫化石が産出した地点は北緯 34 度 54 分 20 秒, 東経 135 度 25 分 10 秒である。この地点では破断砂岩泥岩層が認められ, 基質をなす黑色泥岩からペルム紀新世の放散虫化石が産出した。黑色泥岩は石英, 長石, 粘土鉱物から構成される。

産出した放散虫化石は *Albaillella protolevis* Kuwahara, *Neoalbaillella* sp., *Ishigaum trifustis* De Wever and Caridroit などである。*A. protolevis* は上部ペルム系の *N. ornithiformis* 群集帯~*N. optima* 群集帯下部に産出が限られるので, 八尾・桑原(2004)によると, この泥岩は Wujiapingian 後期~Changhsingian に堆積したものと考えられる。また, 松浦ほか(1995)が *Nassellaria* を報告した地点の長尾山層の泥岩から放散虫化石の抽出を試みたが, 保存の悪い球状放散虫化石が数個体得られたのみで, 中生代を示す証拠は得られなかった。以上のように, 長尾山層の堆積年代が中生代に及ぶかどうかは不明であるが, 少なくとも, Wujiapingian 後期には長尾山層の碎屑岩は堆積していたと考えられる。

長尾山層の碎屑岩から産出した放散虫化石の示す年代は山下層の碎屑岩の年代と同じ年代範囲に入る。山下層の岩相的特徴は, 泥岩を主体とし, 砂岩が数 cm の薄層として泥岩中に認められることである(松浦ほか, 1995)。しかし, 山下層分布域において, 長尾山層と同様に厚さ数十 cm の砂岩層や礫岩層が見られたため, 山下層と長尾山層の岩相的特徴に大きな差異はないものと考えられる。従って, 岩相的特徴も年代も類似するため, 両者を同一の地質体単元でとらえられると判断される。また, 長尾山層はわずかに緑色岩岩体を含み, 山下層・長尾山層には破断砂岩泥岩層も認められることから, 堆積岩複合岩体としての特徴も認められ, 付加複合体である可能性が考えられる。ここでは両者を一括して猪名川コンプレックスと仮称する。

猪名川コンプレックスと高槻層との関係については, 両者の分布が茨木複合花崗岩体によって途切れているため直接的には観察できない。しかし, 猪名川コンプレックスの東方延長に高槻層が位置し, 年代的にも両者は対比される可能性が高い。猪名川コンプレックスは複合岩体としての特徴を持つという観点からみれば, 高槻層も付加複合体である可能性がある。